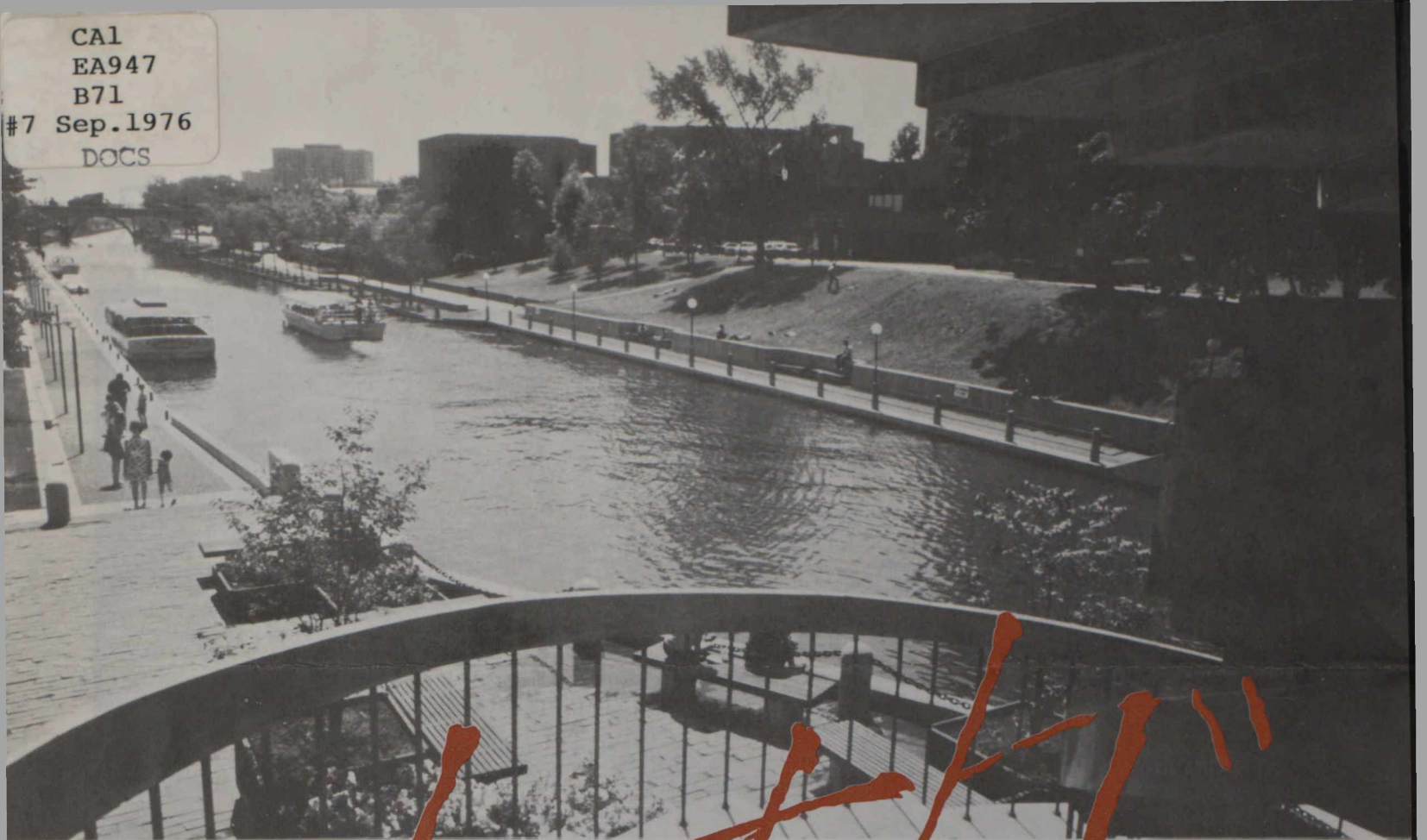


CA1
EA947
B71
#7 Sep. 1976
DOCS



1976年9月
No.7

カ
ニ
ダ

LIBRARY E A / BIBLIOTHÈQUE A E

3 5036 01029990 0

EXTERNAL AFFAIRS
AFFAIRES EXTERIEURES
OTTAWA
OCT 21 1976
LIBRARY / BIBLIOTHÈQUE


60984 81800

- トピックス——2
- 大使館案内——2
- カナダ、ECが契約的連結——3
- 首都オタワと連邦議事堂——4~5
- UBCにアジア・センター——6
- ランキン大使、日加経済関係を強調——7
- カナダから音楽便り——8
- トピックス——8

Bulletin Canada

発行  カナダ大使館

表紙の写真 カナダの首都オタワは木材の集散地から近代的な美しい町へと発展した。オタワはまた運河の町でもある。(記事は四五ページ)。

OECDが五%の伸びを予測

経済開発協力機構(OECD)は、今年の上半期から来年同期間における

カナダの国民総生産(GNP)成長率を五
ないし五・五パーセントと予測している。

同予測によると、米国景気の上昇傾向
が今後も続けばカナダのGNP成長率は
さらに大きくなる可能性もある。ただし

カナダの経済成長によって、カナダから
大量に輸入している諸国では生産性の大
幅な伸びが期待されるものの、カナダの

国際収支自体は影響を受けず、今年の経
常収支の赤字額は昨年(五十億ドル)と
同程度になるものと予想されている。

太陽光線で分解するプラスチック

トロント大学のギリエ教授が考案

わめて敏感で、数週間も太陽にさらすと
ぼろぼろになるというプラスチックの製
造方法を考案した。ぼろぼろになったプ
ラスチックは、木の葉のようにバクテリ
アに侵食されてしまうという。

これは同教授が過去十二年間、学生た
ちと共に行ったプラスチックの大きな分
子に対する光の作用についての研究から
生まれたもの。教授によると、これらの

分子は長い鎖状になっていて、プラ
スチックに特有の強さを与えているが、
アスナックの製造過程で一組の原子を

加えると、太陽光線のもとでこれらの原
子のはさまみの役割を演じて鎖をたち切り、
もろいプラスチックができる。その速度
は大陽光線の強さに比例するという。雨

や風、波などの作用でプラスチックは完
全に破壊される。

屋内では、ほとんどの窓ガラスが紫外
線をさえぎるため、このプラスチックは
それほど太陽光線に影響されず、安定を

保つ。光による分解速度は、感度分子の
量を加減して調整する。例えば、プラ
スチック製のふたのように短期間使用の

ものは、耐久性を必要とする容器よりは
やく分解してもよいように作られるわけ。

教授によると、新案のプラスチックは
食糧増産にも利用できる。この物質の薄

板に適当な間隔であけた穴から野菜を栽
培すると、薄板の下は日光がしや断され
て雑草が生えず、野菜は地中の栄養分を

独占できる。さらに、薄板は温室同様、
しめり気を保つため、雨が一時期に集中
する地域では実用性が高い。同教授のグ

ループは、この方法により、野菜が二日
間早く成熟すること、寒冷地でも栽培が
可能なこと、また五〇パーセントの増収

が得られることを実証した、という。

カナダの連邦議会は七月十四日、か
ねてから審議中の死刑廃止法案を採択
し、翌日レジェン監督の裁可を得た。これ

により、服役中の十一人が死刑を免れる
ことになった(一九六七年以来、公務中
の警官や看守の殺人に対しては死刑が課

されていた)。
死刑が廃止になった代わりに、凶悪犯
罪者に対する刑期が延期された(計画的

殺人に対しては二十五年、単純殺人に対
しては十年の刑となる)ほか、仮釈放の
規則が厳しくなり、また殺人用の凶器と

して最もよく使われる銃類の入手を規制
することになった。

カナダの銀行が導入

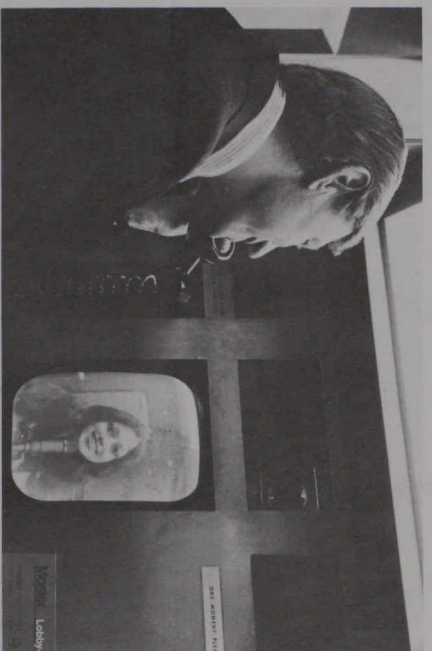
有線テレビと電話を利用して、午前
七時半から晩の六時半まで銀行を利用
できるシステムが九月末、カナダに導入

される。このシステムを採用するのはカ
ナダ・ロイヤル・バンクのトロント支店
で、お客は建物内の商店街におかれた七

台の有線テレビとインクスターオンを通じ
て、同じ建物内の銀行員とお互いの顔を
見ながら話ができる仕掛けになっている。

あとは、気送管の中を通るカプセルに預
金引出し証や入金証を入れると、現金や
書類が返ってくるというわけ。

ロイヤル・バンクでは、この“テレビ
銀行”によって銀行の利用時間が長くな
り、また便利になると説明している。



大使館案内

商 務 部 広 報 課

商務部の主な任務は、カナダの対日輸

出を振興し、両国の貿易関係を発展させ
ることにある。そのため、資源・エネル

ギーや農水産業、機械工業、林産業、一
般消費財などの各分野における担当官を
おいて貿易・商務上のいろいろな問合せ

や相談に応じたりしているが、ここ数年
来、こうしたいわば対応的な業務と並ん
で、積極的なPR活動が重視されてきた。

この中で重要な役割を課せられている
のが広報課。商務部の諸業務をカナダと
の経済・商務関係に関心をもつ日本の会

社や機関に知らせ、貿易関係者にカナダ
の新製品や技術開発などについて紹介す
るのがその主な仕事で、年四回「通商ニ

ユース」を発行しているほか、報道関係
者に資料を提供し、取材の便宜を図って
いる。「通商ニユース」はカナダの新製

品・新技術を紹介する色刷り広報紙で、
関係者に無料で配られている。

カナダ政府は輸出品の加工度向上、カ
ナダの輸出全体に占める完成品の割合の
増加、貿易相手国の多角化などを促進す

るため、物産展や業界代表団の相互訪問
を奨励、実施しているが、広報部はそ
うした企画にも参加して広報活動を行う

か、反響や成果をモニターする。
商務部広報が本格的に活動しだしてか
らわずか二年ぐらいにしかならないが、

カナダにとってますます重要度をまして
きた日本との経済・貿易関係の増進のた
めに、その活動の幅を大きく広げようと
している。

カナダ、ECと概括協定 通商、経済で協力——契約的連結へ

▼協定調印を祝う(左から)マケツカン外務大臣、ソームスEC副委員長、ストールEC理事長。



カナダと欧州共同体(EC)は、七月六日、「通商・経済協力に関する概括協定」に調印した。これは、いわゆるカナダとヨーロッパの「契約的連結」といわれるもので、これにより、カナダはその

対外経済関係を多角化するという外交政策の主要目標を達成したことになる。カナダは、数年前、七〇年代、八〇年代の変容する現実に対処するため、外交政策を根底から再検討した。この再検討から得た大きな結論

のひとつは、将来の選択の道を広げ、かつ対外経済関係のよりよい均衡化などカナダの基本的諸目的を推進する——という必要性の認識であった。こうして、「第三の選択」というカナダの主体性を重視する新外交方針ができた。「第三の選択」というのは、伝統的に緊密かつ友好的な米国との関係を維持しながら、外交・経済関係を多角化するというもので、その中で柱とされたのが日本と西ヨーロッパ。特にヨーロッパとは歴史的にも、人種的にも、文化的にも、また安全保障や経済的相互依存の点でも密接につながっており、そのヨーロッパと将来の経済関係を一層強めようとしたことは当然であった。こうして一九七二

年、カナダはヨーロッパ共同体の理事会と探索的な話し合いをはじめた。一連のこうした話し合いにより、同年十月パリで開かれたEC加盟九カ国首脳会議は、カナダとの「建設的な対話」を開始する希望を表明した。このような対話を通じて、ECとの協定に発展したわけである。

カナダのマケツカン外務大臣によれば、協定は「カナダの対EC経済連結をできるだけ拡大するための協力態勢を作ること」が目的。すなわち、協定はカナダとECの通商・経済協力の枠組を成すもので、これにより両者間の貿易および投資機会の増大、特に産業協力の拡大が期待されている。マケツカン外相は次のように述べている——「今日、貿易は投資、技術、工業所有権移譲、合弁事業、および第三国市場における協力などを包含する複雑な経済的相互作用の中の一要素に過ぎない。われわれがやるうとしていることは、産業協力の観点から最も有望視される個々の部門を洗い出して、カナダとヨーロッパの産業を進展させ、技術的、科学的進歩を奨励し、新たな供給源と市場を開拓しようというものである」

協定はEC側からストール理事長およびソームス副委員長、カナダ側からマケツカン外務大臣が代表して調印した。調印後の記者会見で、ストールEC理事長は、協定が双方にとって特別の重要性をもつもので、両者間の「伝統的緊密な関係を確立する新たな一歩」と表現し、またソームスEC副委員長は「われわれの共通の発展にとって真の一里塚だ」と述べた。マケツカン外相も協定の調印を高く評価し、「カナダと欧州共同体およびそのメンバー諸国の関係発展にとって、画期的

なものとなることを確信している」と語った。

協定の内容は要旨次の通り。
一、双方はカット(関税および貿易に関する一般協力)諸原則の尊重を再確認し、相互に最恵国待遇を付与する希望を確認する。

一、双方は、通商協力により、できるだけ高いレベルまで相互貿易の発展と多角化を推進する。このため、それぞれの政策と目的にしたがい、双方は(a)共通の利害に関わる通商問題を解決するため、国際的に、また二国間で協力するか(b)双方のいづれかに関心のある商取引に対しては、お互いにできるだけの便宜を図る(c)資源へのアクセスおよび加工に関しては、お互いの権益や必要性をじゅうぶん考慮する。

一、協定はカナダおよびヨーロッパの産業発展、技術・科学進歩の奨励、新供給源および新市場の開拓、新たな雇用機会の創造、地域較差の是正、環境の保護・改善に関する協力を主目的とする。これを達成するため、各産業における企業間の連携拡大(特に合弁事業の形で)、相互の投資増大、技術・科学交流、第三国における民間部門間の協力、工業・農業に関する定期的情報交換を奨励、推進する。

一、実施事項に関して重要な役割をもつ共同協力委員会を設置する。同委員会は通商・経済協力の諸面を推進し、かつ検討する。ECとカナダの諸企業や組織間の接触を進展させ、活動を推進するために尽力する。

首都 オタワ

カナダの首都オタワは、今年で設立ちようど百五十年になる。オタワ川、ガテイノー川、リドー川の三つの川に接するこの一帯を材木業者が発見したのは一八〇〇年だが、名前がつけられたのは一八やく一八二六年。その年、リドー運河の建設に当たっていた

技師ジョン・バイ中佐の名前にちなんで、バイタウンと命名された。一八五五年には現在のオタワに改称され、その三年後、ビクトリア女王がオタワをカナダの首都に選んだ。

そして人口も一八三五年のわずか五千人から三十五万人へとふくれ上り、かつこの小さな材木の町は運河を通じてモントリオールやキングストンへとつながる活気あふれる交易港へ、そして連邦政治の中心地へと大きく発展していった。

バイ中佐が掘ったリドー運河(全長二二百キロ)は、現在もオタワの中心部をくねくねと、ゆるやかに流れて、冬には世界一長いスケート場に変化して多くのスケート愛好家を迎え、夏になると市民や観光客がボート乗りを楽しむ。

「この偉大な国の首都を、文明と商業

活動の中心から遠く離れた、全く無価値に等しい場所に定めたということは、狂気の沙汰としか思えません……。私は、当地の公共施設に投下された莫大な費用にもかかわらず、今後四年間、オタワが首都になることはあるまいと確信するも



▲オタワ川の岸壁に立つ連邦議事堂

のであります。」

この極秘の予言は、一八六六年、現在のオンタリオ、ケベック両州にあたるカナダ植民州の総督であったモンク卿から、英本国の植民相に宛てて提出されたものである。ビクトリア女王は、その八年前、時の政府からカナダの植民州の恒久的な

首都を選定するよう乞われ、オタワを選んだ。オタワはさし当り最も反対の少ない候補地である、というのが、この問題について最も大きい影響力をもっていた、女王の補佐役で前総督のエドモンド・ヘッド卿が女王に奏上した意見であった。ケベック、トロント、モントリオール、あるいはキングストンのいずれかを選んだ場合には、おおかたの同意を得るわけにいかないことは明らかであり、したがってオタワが妥協の産物であることはエドモンド卿も十分承知していた。

エドモンド卿は、女王に対して、上カナダと下カナダの双方を刺激しない場所としてはこの小さな材木の町しかない、と報告した。事実、オタワは、上下両カナダにまたがる町といってもよかった。地理的には上カナダ内にあったが、オタワ川を隔てただけで下カナダと接していた。大西洋から五大湖にまでひろがる国の首都としては、荒野のウエストミンスターなど皮肉っぽく呼ばれたりもしたが、その後の歴史は、女王の決定が賢明であったことを示した。

新しい首都の議会議事堂の建設用地として、オタワ川の水面から約五〇メートルの高さにある、当時ブラック・ヒルと呼ばれていた岩だらけの台地に、二九エーカーの敷地が選ばれた。一九六七年当時の案内書は、オタワについて次のように述べている。「その景観は実にすばらしく、新大陸にもヨーロッパにもこれに勝るところはない。広大な川はそれだけで一箇の美観だが、遠く連なる森や丘の広がり加わるとき、誰もが我を忘れて引き込まれてしまう。この場所から見るシュナイエールの滝は手にとるようで、

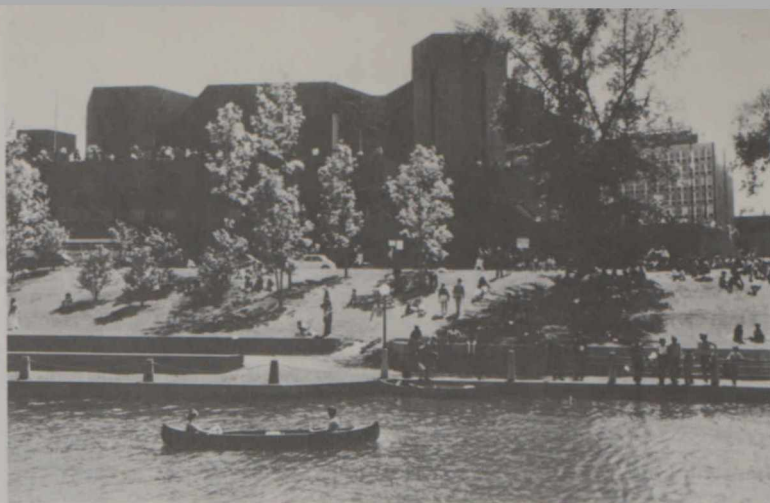
ナイアガラの滝よりロマンチックだといふ人もあるほど」。また、ある高名なイギリスの作家は、ブラック・ヒルをエジンバラ城と比較して、エジンバラ城のある場所は、「大変よい場所」だが、市街地から入る時の急な坂道はカナダの首都にない不利な条件である、と語ったことがある。

政府の多くの省庁がケベックから移転してきた一八六五年までに、議事堂と付属の関連部門の建物の建築は、進んでいた。それまで長い間政府機関の恒久的な所在地を待ち望んできたカナダ植民州は、一八六六年六月六日、第一回の議会開会を祝うことになる。しかし、皮肉なことに、この議会はこれが最初で最後になった。カナダの歴史にやがて新しい一章が書き加えられようとしていたからである。

連邦成立

一八六七年七月一日、カナダ植民州はニュー・ブランズウィック州およびノバスコシア州と統合して、カナダ自治領を形成することになった。従来のカナダ植民州のために建てられた議会議事堂は、そのまま新しい自治領政府の本拠となった。そのとき、沿岸諸州から新しく選出された議員を取容するために、下院の議場に新たに六四の椅子と三二の机が増設され、新聞記者席十二名分から二二名分に拡張された。

議会議事堂が完成したのは、連邦成立から九年後。大英博物館の閲覧室を模して、多辺形に作られている。あかり窓になつてドームの最上部は、床面からの高さが約五〇メートルで、どっしりと



都心にあるナショナル・アーツ・センター

した支柱と飛び梁に支えられた厚さ一メートルの石造りの壁によって支えられており、周辺の小尖塔が全体をやわらげている。それは、ゴシック式の大寺院に付属した小会堂にも似ている。この図書館に使われている石材は、他の建物に使われているものと同じ淡黄色のネピア砂岩である。

議事堂関係の建物の最後の部分として完成されたこの図書館は、時の総督ダブリン卿主催の大舞

踏会によって正式に開館の運びとなった。一八七六年三月二十七日、日暮れとともに馬車が次から次へと到着し、思い思いの衣裳を華やかに着飾った千五百人の賓客が、舞踏会場らしく装飾を施された上院議場に迎えられた。

一九一六年の大火

一九一六年二月三日。寒い冬の夜であった。午後八時五〇分ごろ、一人の議員が下院の読書室で新聞を拾い読みしていた。背中の方が妙に熱いと思つて振り返つて見ると、何やらくすぶっているようす。議員は部屋を出て、議長宿舎の外で見張りについていた警官に、「部屋の中がホヤだ」と叫んだ。数分後には、部屋の中には入れないほどになっていた。

出火三〇分後に最初の爆発が起つて屋根が吹き飛ばされ、一〇〇フィートもの火柱が天空高く吹き上げられた。爆発は五回つづき、やがて建物全体が火に包まれてしまった。出動した消防夫、警官、兵士たちが火とたたかっている間も、時計塔は夜の闇の中で時を告げる鐘を鳴しつづけていた。夜の十二時になつて鐘が十一回鳴らした直後、時計塔が崩れ落ちた。かつての壮厳なたたずまいも、朝までにはねじ曲つた鉄材と瓦れきの廢墟と化してしまつていた。

図書館は、幸い議事堂の間の防火扉の閉鎖が早かつたため、大きな損害は免れることができた。しかし、下院の読書室には、希こう本の聖書やフランス統治時代にさかのぼる貴重な文書のたぐひ四万冊が所蔵されていて、そのすべてが一九一六年の大火で灰となつてしまつた。

議事堂の再建

一九一六年九月一日、二度目の定礎式が、陸軍元帥コンノート公殿下の手で行われた。前回の定礎式は五十年前、殿下の兄君で、国王エドワード七世（当時は皇太子）の手で、確実かつ真正に「行われた。今回の定礎式では、カナダではじめて鑄造された金貨である、一九一二年鑄造の五ドル金貨と十ドル金貨、一九一六年発行のその他の貨幣、郵便切手、ならびに地方新聞などが礎石の中に封入された。

建築委員会は新しい議事堂が一九一七年秋までに完成し、引越しができるようになることを要請したが、この要請は建築技師から拒絶された。これだけの重要建築物がそんなに短期間に建築できるはずはない、というのがその理由であつた。事実、新しい議事堂が正式に開会されたのは、やつと一九二〇年のはじめになつてからのことであつた。

第一次大戦が長引くにつれて、男たちは軍隊に召集されて海外に派遣され、請負業者も、例えばモントリオールのパイター・ライアル木工所のように軍需工場に転換させられるところもでてきただけでなく、ストライキ、鉄鋼その他の建築資材の不足、そしてさらにコストの上昇といつたことが、建築を大幅に遅らせた主な要因であつた。

一九一六年から一九二〇年の間に、労賃は一〇〇パーセント以上も上昇し、資材類も一四〇パーセントという驚異的な上昇率を示した。それでも、戦争中に行われた定礎式から四年たらずで、中央プロックが使用できるところまでこぎつけることができた。

この新しい議事堂の特徴は何といつても平和の塔。この塔には、望楼、直径五メートル以上もある四面体の時計、カナダ軍人の名譽をたたえる戦没者追悼記念の間、そしてカリヨン（組み鐘）が組込まれている。パパラメント・ヒルに立つと、平和の塔のカリヨンから定期的に流れてくる演奏を聞くことができる。平和の塔には、カナダの軍務に生命を捧



▲議事堂前での衛兵交代式

げた男女のための戦没者追悼記念の間が設けられている。記念の間は平和の塔の正面入口の真上にあり、三方がステンドグラスの窓になつている壁面には、北アメリカの歴史にかかわりをもつたすべてのフランス軍、イギリス軍ならびにカナダ軍のそれぞれの連隊記章が彫られている。この塔の建築技師は、在来のゴシック風裝飾の代りに、こうした軍隊の記章を使ったわけである。

戦没者追悼記念の間の中央に置かれた聖卓には、祖国のために戦没したカナダ人の氏名を記載した戦没者追悼名簿が収められ、また、記念の間の床と壁には、フランスとベルギーの主要な戦場から運ばれて来た石がはめ込まれている。

カナダの議会議事堂とその両翼に建っている行政官庁の建築物は、全体で一つの建築群を構成する。オタワ川を見下ろす崖の上に建つこのゴシック建築群は、他に類のないドラマチックな環境を生み出す。堂々たる威厳と、特別な温か味と、そしてカナダ人の性格の一部である伝統的な寡黙さを示しているようでもある。この意味でも、カナダの議会議事堂は、ピンセント・マッセイ元カナダ総督がいつているように、「国家のすばらしい象徴」なのだ。

東西を結ぶアジア・センター

カナダの西支関プリティッシュ・コロ
ンビア州バンクーバーに、広々と、緑豊
かな敷地を構えるプリティッシュ・コロ
ンビア大学。アジア研究で世界的に有名
なこの大学の構内に、新渡戸記念庭園に
隣接して、カナダとアジアを結ぶ新しい
計画——アジア・センター——が実現し
つつある。来年春季に完成が見込まれてい
るこのセンターには、アジア関係蔵書を
専門とする図書館のほか、研究室、会議
室、劇場などが収容されることになって
おり、カナダ・アジア関係の発展に大き
く寄与するものと期待されている。

アジア・センターの建設は各方面の協
力のたまものだ。日本のサンヨー電機株
式会社は、センター建設の提唱者飯田シ
ョーター博士（プリティッシュ・コロ
ンビア大学教授）の依頼で、一九七〇年
大阪で開かれた万国博覧会に出展したサ
ンヨー館の屋根を寄贈したし、また経団
連が五十五万ドル、（一九七〇年）日本
万国博覧会協会が二十五万ドルを寄付
した。これに対応して、カナダ連邦政府
とプリティッシュ・コロンビア州政府も、
それぞれ四十万ドルの補助を与えている
（連邦政府は、のちにカナダ外務省を通
じて、五万ドル追加した）。建物の完成に
必要な残り三百五十万ドルを集めるため、
ジャーナル・オブ・コマース誌（バンク
ーバー）社長ジョセフ・ホワイトヘッド
氏を委員長として、カナダの主要な実業
家からなる委員会も結成された。同委員
会の募金活動はカナダ国内に限らず、今
秋には、アジアで百万ドル募金運動を計
画している。ホワイトヘッド氏の言を借
りれば、「将来アジア・センターが成功
するかどうかは、太平洋兩岸の諸政府や

実業界の取組み方如何にかかっている。
この建物はカナダ人だけのものではない。
アジアの人たちにとっても、貴重かつ実
用的なセンターになるだろう」からであ
る。同氏は、すでに去年の初め、アジア
・センター建設計画と募金運動の趣旨を
説明するため、六週間にわたってアジア
各国を訪問し、韓国、シンガポール、フ
イリピン、インドネシア、マレーシア、
タイ、香港などで同計画に対する高い関
心を得ている。

現在建設半ばにあるアジア・センター
は、外観はもとのサンヨー館に似ている
ものの、内部の設計や機能には画然とし
た相違がみられる。バンクーバーの建築



▲建設中のアジア・センター

家ドナルド・マツバ氏の設計によるこの
全く新しい建物は、カナダ・アジア関係
の有望性を象徴するだけでなく、真に実
用に即した活動の場を提供するようにで
きている。

建物の中核的存在は、アジア研究図書
館。アジアの諸言語で書かれた十八万冊
の書籍を蔵するこの図書館は、この種の

ものとしてはカナダ最大。カナダ政府の
国立図書館と一定のアジア諸国との取り
きめにより、同図書館はプリティッシュ
・コロンビア大学が維持する。（取りき
めに基づき、プリティッシュ・コロンビ
ア大学が国立交流センターおよびアジア
関係重要図書保管所となっている。）

図書館施設としては、ほかに閲覧室、
研究室、アジア研究者・学者用の事務所、
セミナー・会議室、美術展示室、座席数
二百の劇場などがおかれている。劇場は
演劇、舞踊、演奏のほか、小規模の会議、
自由討議、講演などにも利用できる。

アジア・センター完成後は、その活動
のひとつとして、アジア諸国の文化、言

ている。

さらに、アジア・センターの施設は、
現在大学構内各所で開かれているアジア
問題に関する特別講座にも利用されよう。
現代のアジア・カナダ研究と取組んでい
る研究者は同センターを基地として研究
調査に従事できる。その研究結果は実業
界および政府にとって大いに役立つだろ
う。カナダ随一とされるプリティッシュ
・コロンビア大学アジア研究学部は、こ
のセンターの建物には入らないが、同学
部の研究陣・学生にとって同センターが
恒久的かつきわめて有用な施設になる
ことは間違いない。またプリティッシュ
・コロンビア大学に在籍するアジア出身
の学生約千五百人も、アジア・センター
に足しげく通うことになろう。

このほか、アジア・センターはプリテ
ィッシュ・コロジビア大学の美術、演劇、
音楽の各学部、バンクーバー・アジア美
術協会、およびカナダを訪れるアジアの
プロデューサーや芸術家による劇、舞踊、
音楽、絵画、彫刻、織物、陶芸など、ア
ジアの諸芸の展示、上演、制作の場とも
なる。

アジア・センターの利用価値はそれだ
けにとどまらない。プリティッシュ・コ
ロンビア大学は、敷地の西側一帯に一連
の植物園を造成中で、完成するとバンク
ーバー名物のひとつとなることは間違
ない。アジア・センターはこれらの植物
園のひとつ、新渡戸記念庭園に隣接する
ほか、近辺には主としてアジアからの学
生や教授、その他の職員の交流場所であ
るインターナショナル・ハウスや人類博
物館があつて、外来者にとっても興味深
い施設となるだろう。

ランキン大使が講演 日加経済関係の新展望

ランキン大使は七月二十日、読売国際経済懇話会（植村甲午郎理事長）で講演した。この中で、大使はカナダの経済政策の真意を説明するとともに、日加間経済協力関係の必要性を強調した。講演の内容は次の通り（抜粋）。

昨年六月に東京で開かれた日加閣僚会議で、両国の閣僚は、相互経済扶助における組織・協調的努力が行われるかぎり、両国の変化する条件によって、両国経済はこれまで以上に今後、補完的なものになることを事実上認め合いました。目標達成の方法の基礎は、第一に利益の集中する分野の明確化、第二に、貿易、投資、技術交流、合併、供給や市場進出問題における企業間のつながりなど、選定され



▲アルバータ州でのオイルサンド発掘。オイルサンド開発には日本企業も参加している。

た分野のあらゆる局面につき、まず政府当局者が実務的な深層調査を行い、次いで民間がこれに協力するという考え方によることとしております。

協力を集中させる部門の明確化という課題を負った当局者の会談が昨年十一月に東京で開かれました。日加経済協力に新たな方向と奥行きを求めたためのおぜん立てができ、機構がつくられたのであります。

これは、両国がリセッションのショックを感じながら、相互に発展させた大胆な政策でした。その実施は簡単ではないでしょう。たとえば日本の一部ビジネスマンや、一部政府当局者たちは、カナダの国内経済政策の変化が経済関係拡大の障害になろうとの懸念を表明しております。ほぼ必ずといってよいのですが、こうした懸念は、カナダ政策修正の真意への誤解に基づくものであることを発見いたしました。こうした誤解のいくつかを答えてみましょう。

カナダが原料やエネルギーの自給自足を求めているという事実は、カナダが日本その他の輸出市場の必要を無視するつもりであることを意味しません。カナダには、大概の資源がきわめて大量に埋蔵されており、これまでに採掘されたのはごく一部にすぎません。このことは、十分な投資と最新の技術の導入によって、一時的な不足など起こさず、タイムリーな採掘と開発によって、輸出可能な余力を常時維持するため、日本その他との協力が必要であることを意味しています。つぎに、輸出前の資源の加工度向上を優先させるといふカナダの決定は、カナダが日本への原料輸出をストップしよう

としていることを意味しません。カナダが日本への原料輸出をカットするつもりなどないことを私はここに強調いたします。むしろ逆に、カナダはこれまで同様、信頼に値する供給国の立場を続けてゆくつもりです。このことは、カナダの各産業の構造が変化する情勢に対応して進化すること、従来より高い比率の半製、ないし完全加工の原料がカナダから日本へ流れるようになることを意味します。この変化は徐々なもので、カナダの拡大する貿易の純増分しか影響せず、しかもカナダでの加工度向上が競争的コストで実施できる一次加工産業だけにかぎられましよう。

国内投資の選考制度採用というカナダの決定は、カナダが外国からの投資に敵対的になりつつあるとか、カナダにだけ利益を求めようとしているのではありません。むしろ逆に、カナダは外国からの投資を今後とも歓迎し、同時に今後ともカナダは資本の輸出を続けるでしょう。カナダからの資本流出には全く統制がありません。カナダは今後も、カナダへの外人投資家に対し、金銭的に、また可能な場合は製品での見返りという形式で、相当の利益を保障する方針です。繰り返し申し上げますが、カナダは外国からの投資を歓迎します。カナダの生産を増大させ、生産的な雇用者数を増大させ、経済の効率を増大させるため、カナダ人が必要としている資本投資額に貢献、寄与するものとして、海外からの投資を歓迎します。これらはすべてカナダの生活水準を絶えず上昇させる基盤をなすからであります。

カナダは対日輸出のうち、製造工業部

門を拡大したいと、しばしば希望を表明しましたが、これは工業原料の供給継続の条件として、日本はカナダの高性能技術製品を買付けねばならぬと主張しているわけではありません。カナダが航空宇宙産業、遠隔探知、原子力発電（世界最高です）、通信などの分野できわめて高性能の技術製品を生産していることは事実です。そしてこれらの製品が、カナダの対米、対欧、その他の先進工業貿易相手国に比べ、対日輸出に占める比率がきわめて低いことも事実です。しかし、それらの利点を、日本市場で示すのは、われわれ自身の責任であって、日本側にお願いたしましたのは、これらの品質を他国製品と比べる場合に、全く客観的になって頂きたいということだけです。責任の大半は、これらの製品のカナダの輸出業者の対日市場進出のイニシアチブの欠除にあることを認める用意があります。われわれは、これが変化していくものと期待しております。

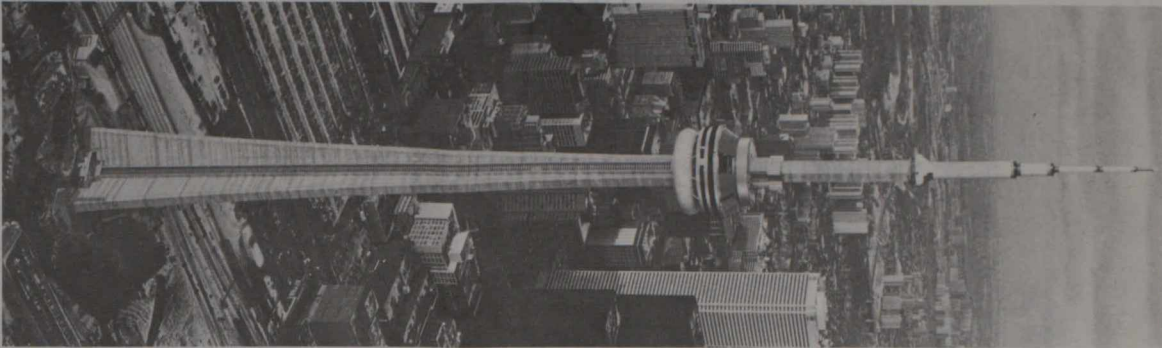
一年前の閣僚会議以降、数多くの使節団がカナダを訪れました。この期間はりセッション、そして不安の時期であり、必ずしも適切な時期ではありませんでした。にもかかわらず、多くのことが実施され、そしてまた計画中であります。この偉大な国、日本との合同企業や経済協力の関係が双方にとり有利であることは明らかです。われわれは、政府間ベースから、企業間ベースへと発展させ、両国の関係を、より広く、豊かで、奥行きのあるものにするのが可能であると考えております。そして私はじめ、駐日大使館のきわめて有能なスタッフは、その手助けをする用意があることを申しそえます。

隠した爆発物を数秒間で探知 リー・インスツルメンツが開発

カナダのリー・インスツルメンツ社は数秒間で爆発物の検出ができる装置を開発した。この装置は世界でもまだめずらしく、爆薬から出る蒸発物の有無を検査して爆薬そのものを発見しようというものである。同社によると、人、荷物、郵便物、建物、自動車に隠してある爆薬を確実にとらえることができ、激重な包装で爆薬をつんでも、グリニング液や食品などの香りの強いものがあっても正確に検出することが可能であるとしている。

この装置は空港や重要施設などに設置する据え付け用とポータブル式の二種類がある。いずれのタイプも爆発物を検出した場合、警告灯と警報がなるようになった。而装置とも微妙な爆薬の蒸発物を正確に検出することが可能で、例えば凶人がナイフを隠した疑いが濃いついた場合、ナイフの隠し場所はもちろん、ナイフに触れた者も識別することができる。また自動車で爆発物を運んだ場合、実際に爆薬を運搬してから数日後でも十分検出できるという。

(日刊工業新聞)



世界チャンピオンのスコット選手 日本ロック・ローリング大会に参加

日本オーアーン・ロック・ローリング選手権大会が七月十八日、名古屋西部木材港で開かれたが、これにカナダのバ・スコシア州バリーリントンから一九七五年ロック・ローリング世界チャンピオン、フレイツァ・スコット選手が特別参加し、技術指導を行ったほか、日本のリカからロンドンの親戚を訪ねるため飛行機でトロントに着いて乗換えたところ、航空会社の手違いでイギリスまで連れていかれた人もあるほどです。

日本オーアーンでは佐々木達也選手が優勝(日加チャンピオン選ではスコット選手)、日本代表選手として世界大会に参加することになった。

世界一ノツボのトロント・タワー

トロントの空にそびえる世界一高い建造物が、このほど一般に公開された。高さ五五四メートルのこのトロント・タワーは通信施設として建てられたものだが、三百メートルを越すところに展望台や回転レストランがあつて、晴れた日にはナイヤガラの滝どころか、その先約六キロのところまで見回せるという。

私のいるオンタリオ州ロンドン市は、

面白いところで、通りの名前はほとんどイギリスのロンドン生き写しです。テムズ川があつたり、コヴェント・ガーデン野菜市場まであるものですから、私も最初面くらいました。その上、オイケストラムロンドン交響楽団を名のり、我々音楽仲間でも気を付けないと話が全くトンチンカンになってしまいます。アメリ

リカからロンドンの親戚を訪ねるため飛行機でトロントに着いて乗換えたところ、航空会社の手違いでイギリスまで連れていかれた人もあるほどです。

私がこのロンドン市にある西オクタリオ大学の教壇に立つてからもう九年近くになりますが、その間の音楽学部の成長ぶりには目を見が加わったとき、専任の先生が学部長を含めて十五人、学生数が二百五十人、カナダ国内では最大の音楽学部となりました。マックレーン学部長は著名なオルガン奏者で、五月に訪日した際、あちこちで演奏、講演し、大変好評でした。教授陣はもちろんカナダ人が一番多いですが、きわめて国際的であるのが特徴です。これは何の分野においても最適な人を選ぶという方針のためでしょう。

国際的という意味では、私が毎夏行っているペンフ・センターについて触れなければなりません。ペンフは最近日本でも大変良く知られるようになり、夏は避暑に、冬はスキーにと、日本からの観光客があとをたちません。そのためか、

本紙は、カナダ大使館から一月に一回発行されます。本紙掲載

内容の転用、転載は自由ですが、その際は出典を明らかにして下さい。

い。なお、ご意見やご希望は左記の住所にご連絡下さい。

東京都港区赤坂七丁目三番三八号
カナダ大使館広報部

カナダからの音楽便り 堤 剛 (チエリスト)

パンクパー島にあるコートニ音楽セクタールに行く予定です。ここでは教えるだけでなく、クワルテット・カナダという四重奏団に属して、公開練習と演奏をすることになっています。このグループはまだできたばかりですが、カナダのそれぞれの分野における最高の人たちがメンバーなので、一緒に演奏しているだけでも楽しく、また勉強に なります。これらの夏期学校の話からも一端がうかがえますが、ここ数年、カナダの音楽界全体の発展、向上は素晴らしいものがあります。そのバイオリネイは、若い国だからこそ可能だと言えるかも知れません。将来に大きな期待を抱かせます。